



新宿区ダンボール再生芸術研究会/新宿区ダンボール絵画研究会
深瀬記念視覚芸術保存基金

<http://kenkyukai.cardboard-house-painting.jp/>

ダンボールに描く夢 —— 「空白のユートピア」としての芸術自治区

1998年2月14日までの数年間、新宿西口地下街へ赴けば、ホームレスの村があった。地下道の空間に立ち現れるダンボール絵画群は夢幻のようであった。「夢のような」という形容に相応しいマチエールと主題であり、ダンボールハウスに描かれた壁画のモチーフの多くは、生きることの苦しみや畏れを表現していた。そこに住んでいた者たちの非日常的な日常——いわば「夢」の現れである。夢は常に薔薇色という訳ではない。実際に、幼少時にみる夢の多くは悪夢である。例えば、呼んでも誰もいない、追いかけられる、穴に落ちるなどの夢である。それらの絵画は、のたれ死んでいった者達や、新宿西口に棲む精霊達が、武盾一郎達の肉体を通じて、オートマチズム的に成立させたもののようにも見える。作家は以前「どうして描くのか？」と質問され、いつも「そこに精霊が住んでいるから。」と答えていた。

「夢」にはもうひとつの意味がある。ユートピア（理想郷）としての自治区に対する夢である。武盾一郎らは、ダンボール村のような、何らかの理由から公権力が直接及びにくくなった「自治区」を渡り歩いて、制作活動を続けた作家達である。自治区は、旧東京大学駒場寮の様に、学生自治と寮取り壊し反対運動の中に生まれるかもしれない。

バブル経済の崩壊によって激増したホームレスが創り上げたダンボール村や、阪神大震災の被災者による下中島公園テント村（「しんげんち」）の様に、社会問題を背景とした公共の場の不法占拠に対する、地域社会や行政側の黙認によって生じるかもしれない。権力の空白は、住民にあたかもそこがユートピアであるかのような錯覚をもたらし、自由がしばし芸術を花開かせる。

ダンボール村は、こうした一種の「芸術自治区」として典型的な形で成立し、国際的にみても特筆すべき独創的芸術を残したと言えるだろう。1990年代、世界では、冷戦終了後の緊張緩和等を背景として、旧東ベルリンのミッテ地区、ロンドンのイーストエンド地区、東京大学駒場寮やダンボール村、しんげんちといっ

た芸術自治区が成立し、その有名・無名にかかわらず、独創的な芸術的成果を残していった。もっとも、1997年以降、日本の金融危機を皮切りに、ロシア危機、ヘッジファンド危機、アジア通貨危機、ITバブル崩壊など、世界は度重なる経済危機に見舞われ、2001.9.11以降は更にイスラム原理主義テロの頻発もあって、管理社会化が推し進められていった。かかる社会情勢の下で、それまで政治的に放置されてきた自治区は、都市再開発や再整備の波に洗われ、次第に姿を消していった。

自治区一すなわち、権力の空白地帯におけるユートピア的状况一の発生と希薄化・消滅の過程は、独創的芸術を懐胎する社会的・文化的状況について諸相を考察する上で示唆に富んでいる。すなわち、その始まりにおいて、芸術家はコミュニティ外部から流入し、当該コミュニティによって直接または間接的に庇護されなければならない。そこには自治区外の芸術慣行ないし社会制度に対するアンチズムがなければならない。コミュニティは極めて多様な形で成立し、王侯・市民富裕層が主宰・承認する場合もあれば、原始共産社会のような形態として成立することもある。最終的には、公権力が自治区に対して全体への統合を強制する。その過程で自治区は内部崩壊し、権力に恭順した住民自身の手で統制が行われ、自由と芸術が圧殺されることもある。

ダンボール村をはじめ、東京大学駒場寮やしんげんちでの武盾一郎らの活動は、このような迫り来る圧殺へのレジスタンスでもあったという。その活動を支えたのは、精神と人格の絶対的自由、そして人間と精霊が共生し得る本物の楽園への夢である。結果として、そこには惨憺たる未来が待ち受けているのだとしても、永遠の理想に向かう夢である。

新宿区ダンボール絵画研究会 事務局長 深瀬鋭一郎

新宿区ダンボール再生芸術研究会 /
新宿区ダンボール絵画研究会
の活動
(2005年4月～10月)

- 第0回会合「キックオフ会」
日時：4.2 (sat) 11:00～14:00
場所：ベルク下のカフェ
- 第1回会合「稲葉剛さんに聴く」
日時：4.30 (sat) 11:00～15:00
場所：もやい事務所 こもれび荘2F
- 第2回会合「新宿を歩こう！ツアー+ダンボールハウス絵画映像記録上映会」
日時：5.21 (sat) 11:00～14:30
場所：新宿区立環境学習情報センター
- 第3回会合「武盾一郎×山根康弘 アーティスト・トーク」
日時：6.18 (sat) 11:15～12:15
場所：新宿区 角管地域センター
- 第4回会合「写真家・迫川尚子の視点～私が新宿地下道を撮った理由」
日時：7.18 (sat) 13:00～15:30
場所：新宿区 柏木地域センター
- 新潟ツアー「木暮茂夫氏に聞く ～地下コミュニティから農耕コミュニティへ～」
日時：7.30 (sat) 7:00～22:00
- 迫川尚子写真展「ダンボール村～96.1.24-98.2.14～」
日時：8.1 (mon)～9.30(fri) 7:00～23:00(8.22休)
場所：ベルク(新宿区新宿3-38-1 マイシティ B1)
- イベント「一寸法師ライブペインティング」
日時：8.13 (sat) 11:00～16:00
場所：東京都庁南展望室
- ブックフェア「Paintings on the cardboard houses at Shinjuku Underground in Tokyo, Japan 1995-1998」
日時：9.4 (sun)～9.25 (sun)
場所：ナディッフ(渋谷区神宮前4-9-8 カソレル原宿 B1)
- トークショー「過剰なリアリズム-シュールレアリスムとグラフィティの交差点」
日時：9.10 (sat) 16:00～18:00
場所：ナディッフ(渋谷区神宮前4-9-8 カソレル原宿 B1)
- 展覧会「ダンボールに描く夢-新宿区ダンボール再生芸術研究会」
日時：9.18 (sun)～10.10 (mon) 10:00～21:00
場所：エコギャラリー新宿2F
- 新宿ツアー「今は亡き王国を歩く」
日時：9.19・23・24・25・10.1・2 14:00～16:00
- シンポジウム「ダンボールハウス絵画とは何だったのか」
日時：10.8 (sat)～10.10 (mon) 14:00～16:00
場所：エコギャラリー新宿2F